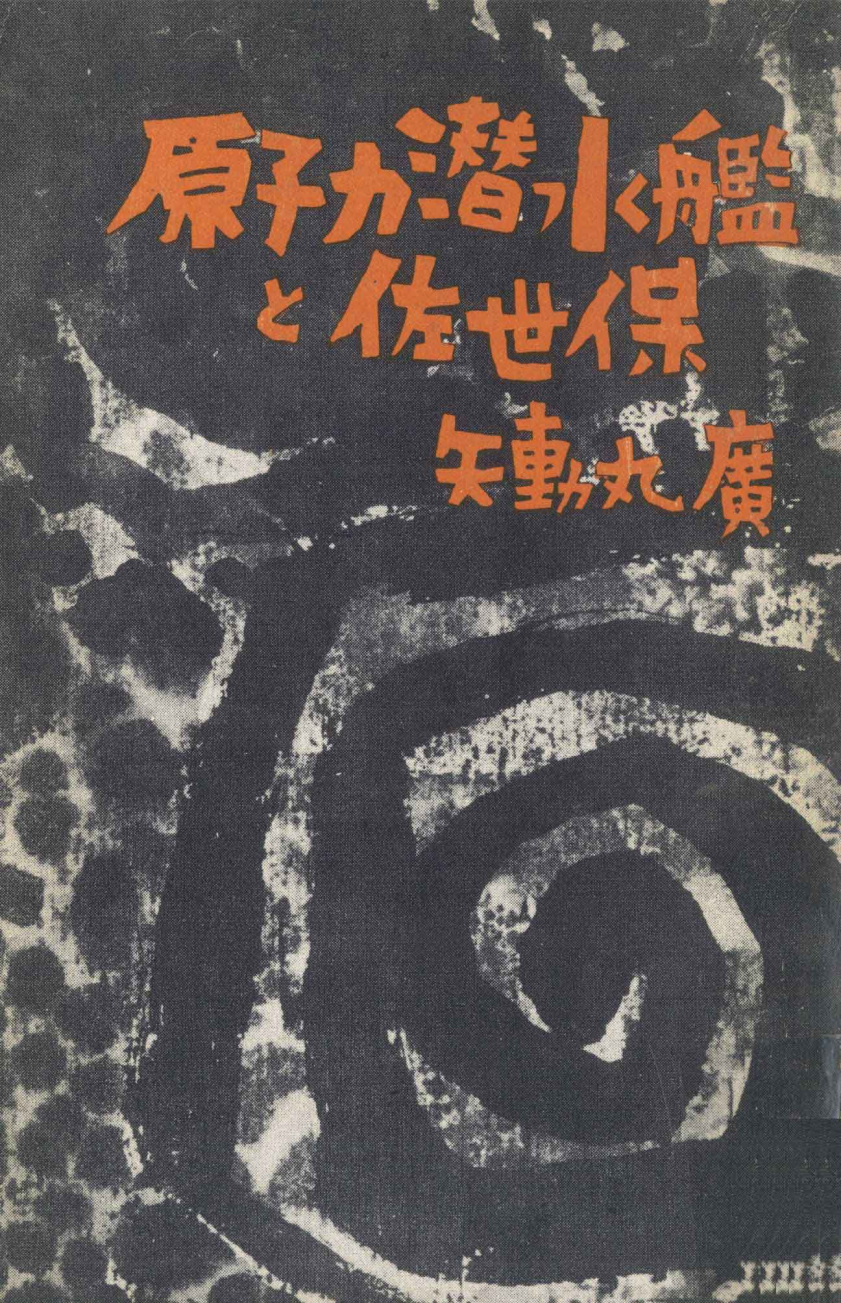


原子力潜水艦 と佐世保

矢動丸廣



原子力潜水艦と佐世保

許可されていない日本の
艇での船舶は岸壁より
50米以内に立入ることも
禁止されている

矢動丸 広 著

佐世保地区労働組合会議

矢動丸 広

や どうまる ひろし

大正2年3月佐世保市に生る
早稲田大学国文科卒業
昭和11年より佐世保に定住
戦後の著書として
「平戸史話」「城砦」「霧の女」
「青い星の独白」その他がある。
1963年6月、原子力潜水艦寄港反
対市民連絡会議議長に選ばれる。
現在、佐世保女子高校理事

原子力潜水艦と佐世保

昭和39年7月28日	初版発行		
昭和39年8月5日	再版発行	定価	200円
昭和39年9月15日	改訂版発行		

著者	矢動丸 広
編集	西村 暢文
発行者	速見 魁
印刷所	隆文社
	佐世保市高梨町223

発行所 佐世保地区労働組合会議
長崎県佐世保市矢岳町
総合会館内 TEL②4877

かぶつてのたうち廻る佐世保市民の骸を想像してください。

誇張でもなければ、妄想でもありません。原子力潜水艦の佐世保入港は、ただその安全性が確認されていないという問題だけでなく、東西両陣営の対立という国際情勢から判断して、人類滅亡の核戦争につながる危険性のあることを考えざるをえません。

わたくしたちは、ささやかながら佐世保市の文化発展を願って、今日まで微力を尽してまいりました。政治にうといわたくしたちですが、佐世保市の危機が膚に響いてまいります。だまっておれないのです。わたくしたちはこのような気持ちから、わたくしたちの郷土、佐世保の永遠の平和を願って、原子力潜水艦佐世保寄港反対のため起ち上りました。どうか全佐世保市民が、わたくしたちの気持ちをお汲みとり下さって、ともどもに反対の意志を表明して下さるよう、切にお願いする次第です。（文化人会議の呼びかけ）

政府はどういうわけか、アメリカの科学アカデミーが発表した「原子力潜水艦は事故がなくても放射能洩れがある」という事実を、国民の前に発表してくれません。佐世保市民は、「放射能洩れ」による佐世保港の汚染を真剣に取り上げようではありませんか。

ぜひ政府にも公表を願って、美しい佐世保の港が放射能汚染で永久に閉鎖せねばならぬような悲しい運命におちいらぬように、今こそ、海で生きねばならぬ佐世保市民が、こぞって立ち上るべき時だと思っています。わたくしたちは、偉大なエネルギー源としての原子力が、平和産業に利用されることを否定するものではありません。むしろ平和産業に利用される原子力は、ますます開発されることをのぞんでおります。ただ、人類が滅亡するような原子爆弾に利用したり、核ミサイルの移動発射基地の推進力に利用することを否定しているのです。

「原子力潜水艦の安全性はまだ確認されていない」というのが、日本学術会議全員の意見なのです。学者の意見を十分尊重し、科学的に安全か危険かを確めて貰って、その上で寄港可否かの返事をするのが、佐世保市民はもとより日本全国民に対する、責任ある政府の態度ではないでしょうか。政治家が議論をして、安全性の確認にはなりません。「危険な近道より安全な回り道」を指導している政府ではありませんか。ぜひ科学者の意見を尊重してください。わたくしたちは佐世保に住み、佐世保の発展を心から願っています。それで、一潜水艦の百人の乗組員が佐世保におとす金よりも、アメリカの原子力潜水艦の基地となつたため、佐世保に落される原子爆弾がこわいのです。コークスの燃えガラのような佐世保の町に、死の灰を

まえがき

（佐世保市民へのアピール）

わたくしたちは、わたくしたちの郷土、佐世保が、いつまでも美しい平和な町であることを願っています。五十年後、百年後のわたくしたちの子孫のために、美しい平和な佐世保市を残しておきたいと思っ
ます。

そのようなわたくしたちの願いもむなしく、政府はアメリカの原子力潜水艦の佐世保入港に承諾を与えようとしています。

原子力潜水艦というのは、アメリカ人自ら云っているように、「アメリカ本国の地上の核ミサイル基地は攻撃の目標になりやすいし、攻撃を受けたらアメリカの本国人が損害を受けるから」というので、こっそり海中にもぐって、海の中から核ミサイルを発射するために造り出したものなのです。だから、原子力潜水艦が核兵器を積んでいないということは、ポンプを積まない消防自動車と同じく、笑うべき政府の見解です。それよりも大切なことは、アメリカ人が損害を受けないようにと、本国で撤去した基地を佐世保に移動して、佐世保市民なら損害を受けてもよいというのでしょうか。

わたくしたちは、原子炉の安全性よりも、戦争の危険性を感じてしようがありません。

目次

まえがき

詩・十万人大集会に

原子の海辺から

戦争の悲しさは消えない

安保の悲しみの中で

佐世保市民に訴える

原子力を畏れぬ輩へ

継続審議という否決

科学と政治

「補給と休養」の背景

黒い魔物

平和運動を進めるために

佐世保の将来のために

一四

一四

一六

二四

三四

四〇

五一

六一

六六

七六

八七

佐世保はアメリカの軍港になるのか	九三
霧の中の会議	一〇三
死のヴェールをかぶる町	一一二
日本の安全性	一二二
原潜寄港のからくり	一三一
はばめ・原潜	一四〇
守れ・ふるさとを	一五一
阻止行動へ	一六一
参考文献	一六八
附録・年表（佐世保地区労編）	一七三
資料・1「緊急対策要綱」（概要）	一八八
2「アメリカ原子力潜水艦一覧表」	科学技術庁原子力局案

後

記

「十万人大集会に」

母に似たふるさとの山。

父に似たふるさとの海。

——美しき天然の町、佐世保こそわがふるさと。

この町に生れ、そだった、われわれの願いは唯一つ。

ひたすらに平和を祈り、ひたぶるに幸福を求め、永遠に栄え行く佐世保なのだ。

この町に、

われらの海に、

原子力潜水艦が入港して来るといふ。

われわれの祈りもむなしく、願いをふみにじる者は誰だ。

誰だ、花園を踏み荒らす奴は！

原子力潜水艦寄港に許可を与える者は誰だ。

誰だ、勝手な真似をする奴は！

原潜は海の野獣。

原潜は黒い魔物。

原潜は佐世保市民を地獄へ運ぶ精霊船だ。

原潜は、そのものすでに核兵器。

入港は、そのことすでに戦場の拡大。

戦争は避けねばならぬ。

平和を叫ばねばならぬ。

人類みな殺しの戦争から、人類みずからを守るために。

平和を守ることが右翼でも左翼でもない。人類の悲願なのだ。

そのむかし、太陽の火を人類に教えたプロメテウスよ。

お前は、人間の幸福のために、わが身を犠牲にした。

プロメテウスよ。

今、日本人は、アメリカ兵の遊蕩のために、命を失わねばならぬ。

今、祖国日本は、アメリカ政府の野望のために、国を失わねばならぬ。

プロメテウスよ。

怒り、起ち上れ。

そして

戦争に使用する一切の原子の火を、たたき消せ。

今日、佐世保のここに、遠いはるかなる地区から、馳せ参じてくれた十万の同志よ。有難う。

われわれは、手をつなごう。強く、固く。

そして、祖国日本のため、

われわれのスクラムを強固な防潜網として、原子力潜水艦の入港を阻止しよう。

あかるい平和な未来のために。（一九六三、九・一大集会で）

原子の海辺から

—悲しき栄光の港—

ぼくらの町・佐世保に、原子力潜水艦を寄港させてほしいと、アメリカが申し出ていることが発表された。△よく覚えておこう。昭和三十八年三月六日、皇后陛下華甲の誕生日・地久節の日である▽

受験勉強で早起きした中学三年の娘が、朝日新聞（三月七日付）の一面に、大きな活字で佐世保港とあるものだから、びっくりして大声で読み出した。黙読できないくらいの衝撃だったのである。

その日、ぼくはウカツにも、誰が寄港してよろしいなどと許可を出すのだろうかと友人に訊ねた。△だから、いつも政治家に馬鹿にされるのだ——と友人はいったが▽この原稿を書いている現在も、誰が許可するのか、寄港させねばならない義理に縛られた条約があるのか知らないのである。ただ、膚にシカに感じていることは、そんな条約があるのなら改めねばならない、許可など出して貰いたくないということだけである。ここでいうには、いささか大げさすぎるが、日本はもとより、世界の人にも知って欲しい。

——佐世保は「美しき天然」の町なのである。△田中穂積が、武島羽衣の歌詞を得て、名曲をうみ出した町なのである。あのなつかしいリズムを憶い出したまえ▽軍港になったのが間違っていたと思われるくらい、美しい自然の町なのである。西海国立公園の中心地であり、観光都市としても世界に知られた町なので

ある。

そしてまた、佐世保の人にも、静かに思い出してほしいことがある。

昭和二十年六月二十八日の夜の記憶を辿って欲しい。

佐世保警察署の裏側の、佐世保川の川べりで、消防自動車の上で焼けただれて死んでいた消防士の奥さんはいらっしませんか。宮地嶽神社の登り口で、黒こげになっていたお婆ちゃんの孫はどうしていますか。八幡神社の裏の防空壕で煙にまかれて死んだ女学生のお父さん、焼夷弾の直撃で倒れて死んだ先生のお子さん、寝巻き一つで、火の街を逃げ出して、夜道を有田まで歩いた人達……その時、もう戦争は嫌いだと思ったにちがいない人達Vそのような方は、いらっしませんでしょうか。

そんな方達は、一人一人が代議士になったつもりで、荒木文部大臣に訊いてみようじゃないか。

① 平和を愛するということを大声でしゃべってもよろしいでしょうか。

② 戦争を嫌いだといってもよろしいでしょうか。△昔の特高警察のような方に、ニラまれないでしょうか？ V

③ 大砲とか爆弾とかいうようなものは、戦争でだけ使う武器と考えてよろしいでしょうか。

④ そんなものを積んでいる軍艦や飛行機などは戦争するための道具と考えてよろしいでしょうか。

⑤ 戦争は敵を殺し、やっつけなければ勝てないと判断してよろしいでしょうか。

⑥ 万一、日本以外の全世界が戦争にまきこまれるような場合、日本だけが中立を守っておれるのでし

ようか。

⑦ そして、戦争を嫌いなものだけが生きのびることができるでしょうか。

⑧ 中立の人が殺された場合、戦争であっても人を殺すことは悪であると訴えてよろしいでしょうか。

⑨ もしも、以上のようなことを先生方が生徒にしゃべったら政治的中立を犯したことになるのでしょうか。△ポラリスを積んだ潜水艦がモラリストとは思えない▽

これらの質問の答えはゆっくり聞くとしよう。

長崎新聞の「つるの声」氏が、ただエンジンが原子力で動くというだけのもので、厳密に言ってこれを「原子力兵器」と呼ぶのはすこしマトはずれだろう」という考え方もあると述べている。(三月七日夕刊)こんな考え方が困るのである。潜水艦が、軍隊のものであるのかないのか、戦争を予期して、戦力として造されたかどうか、△これは防衛庁長官にでも訊くべきものかもしれないが▽考えなくてもわかることである。有力な戦争の道具であろう。

知っている方もあるかもしれないが、アメリカの原子力潜水艦が、どこら辺りをどうウロつき廻っているのやら、ぼくらにはサッパリわからない。また知る必要もないと思っていたが「佐世保港」と聞いては、だまっておれないような気がする。

日本にも港はたくさんあるじゃないか。それが、選りにも選って佐世保が第一に選ばれたことは、「悲しき栄光」でなくてなんであろうか。

正直に言って、この港が台湾とか朝鮮とかいうのなら、まだ気持ちはちがっていたであろう。それが、海の国立公園の中心地だという佐世保だ。清冽な水に、ニンフのような姿を浮かべる島の間を、モソモソと怪物のもぐり抜ける図は、想像しても嫌である。その上、そこが「美しき天然」をはこる多くの生れ故郷ではないか。だまって引ッ込んでいろ、という方が無理である。

ここで、もう一度「つるの声」氏に登場して貰おう。

「また兵員の休養が寄港の主目的なら、斜陽の基地佐世保にとってドルの慈雨がしめることにもなる、という歓迎説もかなり強いようだ」というのである。

市会、県会、或は商工会議所の議員さん方の中にも、そんな考えの方がいられるのだろうか。

△数年も前のことである。ぼくに身の上をシャベツてくれたパンパンがいた。朝鮮通いの船員にキープされて、毎月、アメリカ人から金を送って貰っている。けれども、船の出ている間は、外人専用のキャバレーの踊り子になり、夜な夜な、金のありそうな男をクワえて帰宅する。ベッドの枕元の船員の写真は裏向けにして、アラ金をかせぐ。―この女は、山口県の郷里に、次から次に家を増築して、そのうちに錦を飾って、旅館を経営するといった。▽

これでも、儲かればよいというのだろうか。こんなパン助根性でよいものだろうか。（佐世保市内では中小企業総けっ起大会が催されていた）△ぼくも金は欲しい。ノドから手も足も出すくらいに欲しい。だからどんな稼ぎ方をしてもよろしい、とはいわぬ▽

もし、議員諸公の中に、このような出稼ぎ人根性があるのなら、即座に改めて欲しい。ぼくは、錦を飾るべき故郷を持たない佐世保ツ子なのだ。佐世保を平和で住みよい町に育てて欲しいのである。△これも覚えて欲しい▽昭和二十五年一月十三日の新春市会で、

「佐世保を永久に平和港として育成する」と、歴史的な平和宣言を発表した、光榮ある佐世保市会ではないか。そして、その四月には、驚異的な賛成率で、平和都市へ踏みきった佐世保市民ではないか。

それが、朝鮮動乱が起って、月に六億円の金がおちると、「稼ぎましょう、儲けましょう、国連軍さんよ、パンパンさんよ」である。△何かが狂っているのだ。半年もたたぬうちの豹変である。無責任時代とはこんなことをいうのである▽

潜水艦が戦争の道具であることはいうまでもない。平和なら、わざわざ海の中をモグって、コッソリかくれて行く必要はないではないか。△ぼくは戦争と名のつくものはすべてきらいである。だから、潜水艦も嫌いである。鵜渡越の「四十三号潜水艦」の記念碑でも仰いでみたまえ▽

ここで、衆議院科学技術振興特別委員会での参考人の意見を引用しておく。（毎日新聞・三月七日付朝刊）少し長いが、じっくり噛みしめる必要がある。

立教大学服部助教授の言葉。

「原子力潜水艦は航続距離をのばすため大量の核燃料を積み、しかも炉の暴走を防ぐ制御棒の数を減らし、これは基本的には陸上の原子炉や原子力商船の炉にくらべ安全性が低いことを意味する。しかも、

原子力潜水艦内に貯えられる「死の灰」は五―十キロを越えると思われる。広島原爆によってまき散らされた「死の灰」の量は一キロ前後であり、もしも大きな事故が起り、艦内の「死の灰」がもれた場合、被害はかなり大きなものになる。米国では潜水艦の寄港地を指定し、事故の際、艦を外洋に引航する船の準備などを整えている。原子力潜水艦が入港することは出力五―十万キロワットの日本最大の原子炉が国内にできることを意味するから政府は安全措施を講じてほしい」

「おそらく、原子力潜水艦が佐世保港に入港したら、佐世保市民は武雄か嬉野あたりまで疎開していなければ、万一の時は危険であろう」

東京大学松山教授の言葉。

「原子力潜水艦の死の灰は艦内にためられるが、原子炉の冷却水は放射能をおびたまま「たれ流し」されると推定される。この放射能は魚の体内に濃縮されてたまっている。冷却水をまとめて捨てたと思われる海域では海水中の放射能が異常に高く、その周辺の魚の中には人体許容量の数百倍という放射能を持っているものが発見されている」

「海底をさまよい歩き、けがれを被い給う速佐須良姫よ。放射能も清め給うや」

しんしんと「死の灰」降りぬ。

四ヶ町、人影はなく

金明堂の週間誌舗道に吹かれ